

入学者選抜試験問題

国語

実施 令和八年二月十日（火）（1回目）

注意事項

- 一 監督者の合図があるまで問題冊子を開かないでください。
- 二 解答用紙は問題冊子の間にはさんであります。
- 三 試験時間は五十分です。
- 四 解答は、全て解答用紙にHBまたはBの鉛筆（シャープペンシルも可）を使ってマークしてください。解答用紙の「マーク例」「注意事項」を確認すること。正しくマークされていない場合は採点できません。また、答えを直すときにはきれいに消してからマークし直してください。
- 五 解答用紙は、汚したり、折り曲げたりしないでください。
- 六 問題冊子も回収しますので、受験番号・氏名を記入してください。
- 七 問題は 一 から 四 までで、一ページから九ページに印刷してあります。

受験番号（

）

氏名（

）

一 次の問にそれぞれ答えなさい。

問一 次の①～⑤の―線部の漢字の読み方として最も適切なものを、後の1～4の中から一つずつ選び、番号を答えなさい。

解答番号は①～⑤。

①曇天で外が薄暗い。①

- 1 ぜんくう 2 とんあめ
3 どんてん 4 しんてい

②重畳する山並み。②

- 1 ちようちよう 2 じゆんじよう
3 じゆうりよう 4 ちようじよう

③怠業への対策を施す。③

- 1 たいぎよう 2 おうきよう
3 ぎようおん 4 だいきゆう

④既製の服を買う。④

- 1 きせい 2 せいぎん
3 すうてい 4 がいせい

⑤彼女は慎重な深い性格だ。⑤

- 1 はにか 2 つつし
3 うるわ 4 いまし

問二 次の①～⑤の―線部のカタカナを漢字に表したとき、その

漢字と同じ漢字を含むものを、後の1～4の中から一つずつ選び、番号を答えなさい。解答番号は⑥～⑩。

①練習の日程をケイジした。⑥

- 1 雑誌にケイサイする。 2 レンケイを密にする。
3 ケイコウが見られる。 4 公園でキュウケイした。

②念願叶ってカンガイ深い。⑦

- 1 次世代を担うキガイ。 2 テンガイ孤独の身の上。
3 風潮をガイタンする。 4 ガイコウについて学ぶ。

③トウトツな発言に戸惑う。⑧

- 1 テットウを建てる。 2 トウシの鑑賞文を書く。
3 演奏にトウスイする。 4 伝統をトウシュウする。

④興味サクゼンたる思い。⑨

- 1 サクサンにひたす。 2 作文をテンサクする。
3 境内をサンサクする。 4 シサクにふける夜。

⑤痛みをシズめる。⑩

- 1 ウンチンを確認する。 2 山海のチンミ。
3 チンツウな面持ちだ。 4 反乱軍をチンアツする。

二 次の問にそれぞれ答えなさい。

問一 「黙もくつて鳥が飛とぶのを見みていた」の―線部のうち品詞の種類が異なるものを、次の中から一つ選び番号で答えなさい。
解答番号は11。

- 1 黙もくつ 2 飛とぶ 3 見み 4 た

問二 「居ゐる」の活用の種類を、次の中から一つ選び番号で答えなさい。解答番号は12。

- 1 ア行上二段活用 2 ラ行上二段活用
3 ア行五段活用 4 サ行変格活用

問三 「住すめば都」の―線部「住すめ」の活用形を、次の中から一つ選び番号で答えなさい。解答番号は13。

- 1 連用形 2 連体形 3 終止形 4 假定形

問四 「優秀な人物は遅れて頭角を表す」という意味の故事成語を、次の中から一つ選び番号で答えなさい。解答番号は14。

- 1 温故知新 2 大器晩成
3 一子相伝 4 朝令暮改

問五 「日没」のように、前の漢字が主語、後の漢字が述語になっている熟語を、次の中から一つ選び番号で答えなさい。
解答番号は15。

- 1 国営 2 早急 3 遠路 4 賛否

問六 「配布」の対義語と同じ漢字を含む熟語の組み合わせとして正しいものを、次の中から一つ選び番号で答えなさい。
解答番号は16。

- 1 分別・布陣 2 取得・必要
3 回旋・吸収 4 満足・納得

問七 尊敬語を、次の中から一つ選び番号で答えなさい。解答番号は17。

- 1 存じ上げる 2 差し上げる
3 お目にかかる 4 お召しになる

問八 清少納言の作で、平安時代前期に成立した随筆の精神として正しいものを、次の中から一つ選び番号で答えなさい。
解答番号は18。

- 1 よろし 2 かなし 3 をかし 4 あはれ

問九 歌集『みだれ髪』の作者として正しいものを、次の中から一つ選び番号で答えなさい。解答番号は19。

- 1 松尾芭蕉 2 与謝野晶子
3 樋口一葉 4 若山牧水

③ 次の文章を読み、後の問に答えなさい。

《あらすじ》

三女の七重^{ななえ}によるひとことをきっかけに、馬淵は亡き母、そして中庭に咲く花についての思い出を家族に話し始める。

「花のことを話してたのよ。咲いてる花の数を数えてたの。」
と七重はいった。

中庭にあつて三月半ばに咲く花といえ、白木蓮^{はくもくれん}だということは家族の誰もが知っている。白木蓮は、葉が出るより先に花が咲く。花は大振り、年寄りの目でも容易に数えられる。(略)

「そういえば、お祖母ちゃんは白木蓮の花が好きだったね。花では、この花が一番好きだったっていった。」

(略)

「でも、お祖母ちゃん、とうとう名前が憶えられなかったね。」

と次女が笑っていった。

「Aの？」

「そう。」

「……そうでした、お父さん？」

と長女が首をかしげながら馬淵に訊いた。

「多分、志穂のいう通りだったろうな。」と馬淵は答えた。「お祖母ちゃんは、花が好きなくせに、花の名前を憶えるのが苦手だった。いくら教えても、すぐ忘れるんだ。それで、勝手に自分の好きな名前で呼んでた。」

「白木蓮は？」

「田打ち桜。」

田打ち桜のことは、妻も娘たちもあまり聞いたことがないらしかった。

「農家ではね、春になると、耕作しやすいように田を掘り返すんだ。それが田打ちで、その田打ちのころに咲く花が田打ち桜さ。」

馬淵は講釈^{こうしゃく}した。

「でも、地方によって田打ちの時季がちがうから、田打ち桜もまちなんだ。ある土地では、田打ち桜といえ、糸桜だし、別の土地では山桜だったりする。僕の郷里の田打ち桜は、辛夷^{こふし}なんだ。」

「白木蓮じゃないの？」

と志穂が意外^Bそうにいった。

「Cでも、葉が出るより先に花が咲くところは白木蓮とおなじで、まだ冬枯れのままの林のなかに、辛夷だけが枝々の先に真っ白な花をひつそりと咲かせている眺めは、とてもいい。」

「じゃ、お父さんも好きなのね、その辛夷の花を。」

と七重がいった。

「そりゃあ好きだ。お祖母ちゃんとおなじくらいにね。僕はこの家に住むことになったとき、庭にどうしても辛夷の樹が植えたくて、近くの植木市へ苗木を買いにいったんだよ。」

馬淵はそういつてそのときのことを話して聞かせた。

植木市には、残念なことに辛夷の苗木はなかった。それでも諦め切れなくて、売りに出されている苗木を縫って市のなかを巡り歩いていると、半纏^{はんてん}を着て地下足袋を履いた初老の職人らしい男が、しゃがんで煙草^{たばこ}を喫^{注3}んでいたのをわざわざ立ってきて、お兄さん、なにを探しているんで、と馬淵にいった。そこで、聞いていた娘たちは笑った。その職人らしい初老の男が、自分たちの父親のことをお兄さんと呼んだというのがおかしかったのだ。

「だって、お父さんはそのころまだ三十四、五だったのよ。」

と妻の菊枝がいった。

「まあ、お父さんは齢より若く見える方だからね。」と長女が分別^E顔^Fでいった。「それに、植木を買いにいったんだから、うんとラフな格好してたんでしょう。」

「作業用のジャンパーに古ズボンで、自転車に乗っていったな。帰りには、辛夷の苗木を荷台にくくりつけてくるつもりだった。」
馬淵は、遠くなった記憶を引き寄せながらいった。

なにを探しているのかと訊かれて、辛夷の苗木が欲しいのだが、と答えると、辛夷はないが、辛夷を台木にして白木蓮を接ぎ木したのならある、と職人風の男はいつて、幹の細い、ひよろりとした若木を持ってきて見せてくれた。根の部分は、土をつけたまま荒縄で網の目に編んだもので丸く包み込んであった。

男の話によると、辛夷は太木になるから普通の家の庭木としては不適當で、おなじモクレン科の白木蓮を接ぎ木したのが、この樹。これなら近所に迷惑を及ぼすほどの太木にはならないし、花は辛夷によく似ていて辛夷より大きく、豪華で、庭木として最適である。そういうことであつた。

この樹は、辛夷ではないが、人間なら血液にも等しい辛夷の樹液が流れている。馬淵はそう思つてこの樹を買い、自転車荷台にくくりつけて帰つた。それが、いまは幹が直径十センチほどにもなり、毎年三月になると、白い大振りな花をどつきり咲かせるようになっている。

母が初めてこの白木蓮の花を見たとき、不思議そうな顔でこう囁いたことを、馬淵は憶えている。

「東京にも、田打ち桜があるべおな。」

馬淵には、母が「H」と間違えていることがすぐわかつた。

「これは白木蓮という樹ですよ、お母さん。」
と馬淵はいつた。

「田打ち桜じゃねんのな。」

「仲間だから、よく似てるけど、ちがうんです。ほら、花が田打ち桜よりも大きいでしょう。」

「道理で」と母はいつた。「田もねえここに田打ち桜があるのは妙だと思つてたのせ。」

I、母は白木蓮という名をすぐ忘れてしまつて、最後まで自分では田打ち桜だと思ふことにしていたようである。

(三浦哲郎『燈火』幻戯書房より)

- 注1 講釈 話の内容や語句の意味などを説明すること。
- 注2 半纏 羽織を簡略化した丈の短い防寒着。
- 注3 煙草を喫む たばこを吸う。
- 注4 台木 接ぎ木をする際土台になる木。
- 注5 あるべおな 東北地方で用いられる方言。主人公馬淵は青森県の出身である。「べ」は疑問を表す助詞。
- 注6 妙だ 東北地方で用いられる方言。妙なこと。

問一 A・H に当てはまる言葉の組み合わせを、次の

中から一つ選び番号で答えなさい。解答番号は20。

1	A	田打ち桜	・	H	白木蓮
2	A	白木蓮	・	H	辛夷
3	A	辛夷	・	H	田打ち桜
4	A	辛夷	・	H	白木蓮

問二 |線部B「意外そうにいつた」とあるが、なぜか。理由として最も適切なものを、次の中から選び番号で答えなさい。解答番号は21。

- 1 毎年三月半ばに中庭で花を咲かせる身近な存在である白木蓮と、遠くの「田打ち桜」の名前が結びつかなかったため。
- 2 葉よりも先に花を咲かせる辛夷は、馬淵たちの郷里で田打ちの始められる頃には全ての花を落としてしまうため。
- 3 「お祖母ちゃん」が花を好きなのは家族周知の事実であり、白木蓮の名前を間違えるとは誰も思えなかったため。
- 4 「お祖母ちゃん」が一番好きだと言つたのは白木蓮であるのに、故郷で親しんだはずの「田打ち桜」は辛夷であつたため。

問三

C には次の四つの文章が入る。入る順番を答えたものを、後から一つ選び番号で答えなさい。解答番号は22。

ア 僕やお祖母ちゃんの田舎には、白木蓮という樹がないんだよ。
イ 辛夷は山野に自生して、白木蓮の倍も高く成長するけど、花は白木蓮の半分くらいだ。
ウ そうじゃないんだ。
エ その代わり、白木蓮によく似た辛夷がある。

1 ア↓ウ↓エ↓イ 2 ア↓イ↓エ↓ウ
3 ウ↓イ↓エ↓ア 4 ウ↓ア↓エ↓イ

問四

―線部D「ひっそり」と同じ品詞の言葉を、次の中から一つ選び番号で答えなさい。解答番号は23。

1 そつと 2 美しい 3 大きな 4 急だ

問五

―線部E「分別顔」の意味として最も適切なものを、次の中から選び番号で答えなさい。解答番号は24。

1 相手に対し、慎重かつ十分に配慮しているような顔つき。
2 自分をよく見せようと気取っているような顔つき。
3 物事の筋道をよくわかっているというような顔つき。
4 物事のいきさつを説明するかのような顔つき。

問六

―線部F「人間なら血液にも等しい辛夷の樹液が流れている」とあるが、どういうことか。最も適切なものを、次の中から選び番号で答えなさい。解答番号は25。

1 辛夷の花は白木蓮よりも小ぶりで、樹の高さも低いため、並ぶと兄弟のように見えるということ。
2 辛夷と白木蓮には葉よりも先に花が咲くという特徴があり、植物としての構造が全く同じであるということ。
3 売られた白木蓮は辛夷を台木として育ており、辛夷の体から生まれたと言えるということ。
4 売られた白木蓮は辛夷と同じモクレン科であり、人間なら親戚のようなものであるということ。

問七

―線部G「不思議そうな顔」とあるが、そうした表情をしたのはなぜか。理由として最も適切なものを、次の中から選び番号で答えなさい。解答番号は26。

1 息子が辛夷を白木蓮と紹介することがおかしかったため。
2 郷里でなじみの辛夷の花が東京にあり、おどろいたため。
3 庭木としては不適當な辛夷が、中庭に植わっていたため。
4 辛夷より小さい白木蓮が、辛夷より豪華な花を付けたため。

問八

I に当てはまる言葉を、次の中から一つ選び番号で答えなさい。解答番号は27。

1 けれども 2 それで 3 それに 4 また

問九

本文の内容として正しいものを、次の中から一つ選び番号で答えなさい。解答番号は28。

- 1 「馬淵」は郷里の「田打ち桜」である辛夷を庭に植えようとしたが、植木市の職人に販売を断られてしまった。
- 2 辛夷は白木蓮を台木として育てられており、一般家庭の庭木として扱いやすいよう品種改良されたものである。
- 3 「お祖母ちゃん」は、最後まで白木蓮と名前を間違えて覚えていたが、辛夷の大振りな花を好んでいた。
- 4 毎年葉が出るより先に花を咲かせる白木蓮の姿は、「馬淵」の家族にとってなじみあるものになっている。

④ 次の文章を読み、後の問に答えなさい。

読書を必要ないとする意見の根拠として、読書をするよりも体験することが大事だという論がある。これは、根拠のない論だ。体験することは、読書することとまったく矛盾しない。本を読む習慣を持つている人間が多くの体験をすることは、まったく難しくはない。むしろいろいろな体験をする動機づけを読書から得ることがある。

たとえば、^{注1}藤原新也のアジア放浪の本(『インド放浪』朝日新聞社、など)を読んで、アジアを旅したくなる若者がいる。本に誘われて旅をするというのはよくあることだ。あるいは考古学の本を読み、実際に遺跡掘りの手伝いに行く者もある。読書がきっかけとなって体験する世界は広がってくる。

^Aそれ以上に重要なことは、読書を通じて、自分の体験の意味が確認されるということだ。本を読んでいて「自分と同じ考えの人がここにもいた」という気持ちを味わうことは多い。まったく生まれも育ちも違うのに、同じ考えを持っている人に出会うと、自分の考えが肯定される気がする。自分ではぼんやりとしかわからなかった自分の体験の意味が、読書によってはっきりとすることがある。「あれはこういう意味だったのか」と^{注2}腑に落ちることが、私は読書を通じてたくさんあった。

暗黙知という言葉がある。自分ではなかなか^B化できないが、意識下や身体ではわかっているという種類の知だ。言語化しにくいけれども何となくからでわかっているような事柄は、私たちの生活には数多い。むしろそうした暗黙知や身体知が、氷山でいうと水面の下に巨大にあり、その氷山の一角が明確に言語化されて表面に出ている、という方が^Cに即しているだろう。本を読むことで、この暗黙知や身体知の世界が、はっきりと浮かび上がってくる。自分では言葉にして表現しにくかった事柄が、優れた著者の言葉によってはっきりと言語化される。こうした文章を読むと共感を覚え、^P線を引きたくなる。

「自分ひとりの経験ではなかったのだ」という思いが、自分の生を勇気づける。自分をつくっていくためには、現在の自分を^Eして、より高次の自分へと進んでいくことももちろん必要だが、私の実感では、自分を^Fしてくれる者に出会うことによって、すっきりと次に進むことができるように思う。体験すること自体が重要なのではなく、その体験の意味をしつかりと自分自身でつかまえ、その経験を次に生かしていくことが重要なのだ。体験の意味を深め、経験としていく。その積み重ねに、本は役立つ。優れた著者が自分と同じ経験や意見を述べてくれていると、安心して自分を肯定できる。自分に都合のいい著者ばかりを選んで読むというのは、狭い読書の仕方のように思われるかもしれないが、読書を始めた頃とはくに、共感を持って読める本の方が加速する。

読んでいると、「そうそう、自分も実はそう考えていた」と思うことがよくあるが、多くの場合、そこまで明確に考えていたわけではない。言われてみると、それまで自分も同じことを考えていたと感ずるということだ。しかし、この^Gは問題ない。あたかも自分が書いた文章のように他の人の書いたものを読むことができるというのは、幸福なことだ。

なぜこの著者はこんなにも自分と同じような感覚を持っているのだろうか、あるいは、まさにこれは自分が書いたものなのだと感ずることさえ、私の場合あった。

自分の経験と著者の経験、自分の脳と著者の脳が混じり合っってしまう感覚。

これが、読書の^{注3}醍醐味だ。^Hこれは自分を見失うということではない。一度自分と他者との間に本質的な事柄を共有するというのが、アイデンティティ形成の重要なポイントだ。自分ひとりに閉じて内部で循環するだけでは、アイデンティティは形成されない。他者と本質的な部分を共有しつつ、自己の一貫性をもつ。これがアイデンティティ形成のコツだ。

読書は、自分の経験を確認しやすい行為だ。すでに言葉として紙

の上に定着している言葉は、生まれては消えていく体験に形を与える。「自分に引きつけて読む」という読み方は、客観的とは言えないが、読書のある時期には必要なこともある。(a)自分の生き方を肯定してくれるような著者を探し、自分自身を勇気づけていくことは、自己形成のプロセスとして有効だ。(b)何人もの著者から自分の経験を確認させてくれる人として持つことができれば、狭い思いこみも徐々に広げられていく。(c)ある程度わかつていくつもりのことでも、はつきりと文字にして表現されることで、確認をすることができ。(d)認識を定着させていく上で、読書による経験の確認は、意外に大きな意味を持っている。

(齋藤孝『読書力』岩波書店より)

注1 藤原新也 日本の作家・随筆家・写真家。

注2 腑に落ちる 納得がいく。

注3 醍醐味 物事の本当の面白さ。

問一 この文章の小見出しを、次の中から一つ選び番号で答えなさい。解答番号は29。

- 1 辛い経験を乗り越える
- 2 自分と向きあう厳しさとしての読書
- 3 経験を確認する
- 4 読書自体が体験となる読書

問二 |線部A「それ」が指す内容を、次の中から一つ選び番号で答えなさい。解答番号は30。

- 1 考古学の本に影響され、遺跡掘りの手伝いに実際に行くこと。
- 2 読書をきっかけに、アジアを旅したくなる若者がいること。
- 3 体験することは、読書することと矛盾はしないこと。
- 4 読書から、いろいろな体験をする動機づけを得ること。

問三 |Bに当てはまる言葉を、次の中から一つ選び番号で答えなさい。解答番号は31。

- 1 現実
- 2 意識
- 3 経験
- 4 重大

問四 |Cに当てはまる言葉を、次の中から一つ選び番号で答えなさい。解答番号は32。

- 1 リアリテイ
- 2 フィールド・ワーク
- 3 モラル
- 4 セクション

問五 |線部D「と」と同じ意味・用法の「と」を含む文を、次の中から一つ選び番号で答えなさい。解答番号は33。

- 1 帆船がゆっくりと進んでいく。
- 2 友人と一緒に図書館に出かけた。
- 3 この川は雨になると増水する。
- 4 兄は歴史と数学に関心が高い。

問六

E

 ・

F

 に当てはまる言葉の組み合わせを、次の中から一つ選び番号で答えなさい。解答番号は

34

。

4	<table><tr><td>E</td></tr></table>	E	否定	•	<table><tr><td>F</td></tr></table>	F	肯定
E							
F							
3	<table><tr><td>E</td></tr></table>	E	否定	•	<table><tr><td>F</td></tr></table>	F	否定
E							
F							
2	<table><tr><td>E</td></tr></table>	E	肯定	•	<table><tr><td>F</td></tr></table>	F	否定
E							
F							
1	<table><tr><td>E</td></tr></table>	E	肯定	•	<table><tr><td>F</td></tr></table>	F	肯定
E							
F							

問七

G

 に当てはまる言葉を、次の中から一つ選び番号で答えなさい。解答番号は

35

。

- 1 発見 2 不備 3 錯覚 4 後悔

問八 |線部H「これ」が指す内容を、次の中から一つ選び番号で答えなさい。解答番号は

36

。

- 1 自分が共感を持って読める本との出会いが、読書の醍醐味であるということ。
 2 自分が書いたように思える本の著者と読者の自分が、重なっていくということ。
 3 アイデンティティ形成の結果、自分と著者の経験が混ざり合っていくということ。
 4 自分と同じような感覚を持った著者の存在を知ること、人は幸福になれるということ。

問九 次の文章は本文の (a) ～ (d) のどこに入るか。当てはまる箇所を、後から一つ選び番号で答えなさい。解答番号は

37

。

危険なのは、それが一人に限定して狭くなってしまう場合などである。

- 1 (a) 2 (b) 3 (c) 4 (d)

問十 本文の内容として正しいものを、次の中から一つ選び番号で答えなさい。解答番号は

38

。

- 1 共感を持って読める本の著者は自分の経験を確認させてくれる人なので、「自分に引きつけて読む」ことも必要である。
 2 読書と体験については様々な考え方があがるが、読書という体験は著者の脳と重なりを得られるという唯一のよさがある。
 3 暗黙知や身体知の世界は本を読むことでしか見ることの叶わない世界なので、好きではない著者の本にも親しむべきだ。
 4 経験自体よりも経験の意味を自分で確かめたり深めていく体験が大事で、読書はそのことを確認しやすい行為である。